

結・たより, Vol.14

発行:神戸 : ウイメンズ・シンクタンク・ユイ

1999.2.20. - 16p

請求記号:震災-6-z26

* 震災関連記事のみテキスト化しています

震災から4年たって...

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から4年。神戸の町には新しい家々が立ち並びました。この3月で仮設住宅も設置期限を迎えます。震災はだんだん見えなくなっていますが、私たちはいつも心のどこかにあの震災を刻みつけて生活しています。「ユイ」の会員の皆さんから寄せられた近況報告、現在の思いを特集します。

○私の77年の来し方に忘れられない出逢いの人たちを偲ぶ中で、形になって残っているものはないけれど、生きているということはいいいもんだという思いを楽しませてもらったと思います。

一瞬にして家を失った4年前の1月17日の朝を私は時計の針の動きを見つめて、思いだしつつ待ちました。今の市住のくらしの中で時々、元の家が夢に出てきます。花一杯の庭の中にある家ですが、夢には音がないんですヨ。人間の声もない。

市住に来て、この夢の続きのような生活をしていますけれど、1999年までも生きたのだから、今一度、人間っていいものだという出逢いをさがそうかなーと思うんです。この3月で退職します。

冬一番 冬帽子にかえ似合うかと
喜寿の姥のためらいおかし

快樂追う 夜の巷のルミナリエ
寂しからずや住む家もなくに

浴衣布を 小端に切って油ふきに
つくる老いの手血管のみゆ

夕陽おち 暗くなりたる教室の
寂寥として教師終わりぬ

(神戸市東灘区 橋本幸子)

○1999年は1939年生まれの私の還暦です。うさぎ年、B型、獅子座の性格はおっちょこちょい、唯我独

尊、オンマイウェイ、傍若無人！！というところですよ。

周囲に迷惑のかけっぱなしですが、死ぬ時だけはいさぎよく．．．ということで、今年の目標は遺言ノート（井上治代作）の完成です。ノートを書きつつ、身辺整理をしてどれだけ余分なものをそぎ落とせるか。生まれた時と同様、裸になりたいですね。

（三木市 赤松彰子）

○阪神大震災から、もう4年もたってしまったのですね。あの当時、遠くにいて何もできない自分。ボランティアとはなど、考えさせられることのたくさんあったはずなのに、4年という日常が流れてしまいました。

でも、この4年間、養父の死、夫の病氣友人の死など、身辺の死から生を考える機会がたくさんありました。大震災も同じですね。亡くなった人から“今”を考えたり未だにさまざまな後遺症（身体・精神・社会内）をかかえている人のことを忘れずに関心を持ち続けることで、何か機会があった時にはすぐに行動できる自分でいたいと思っています。

（新潟県 湯野川淑子）

○1月17日が日曜日だったこともあり、だいぶ久しぶりに神戸に行きました。（コンサートを聴きに）地震の1週間後に歩いた道を今回はバスで通りかかりましたが、ごく新しい建物ばかりが続いている「異様さ以外は、全く表向きは“復興”を遂げた街並み。TVでは、この数日間だけやたらに震災当時で振り返られていましたが、普段は本当に無かったことのようにです。

4年前を振り返るだけでなく、4年目の現在の状況から来るいろいろなことがあるはず、と思います。

（京都市 大道玲子）

○この頃とみに、ねぼすけになった私は17日午前5時46分にはベッドの上で亡き6,430柱に祈りを捧げた。昼のテレビで小淵首相の追悼の辞を聞いた。何の感慨も湧かない。点稼ぎに来神したのかと疑いたい。

翌朝18日、永六輔さんの“私たちは忘れない”の新聞記事を読む。“そうだ、そうだよ、みんなも私も忘れないよ、この日のこと”と、大きな声で叫ぶ。本気で叫ぶ！！

何もできなくても、何もしなくても、同じ人間、同じ仲間の人たちと心はいつもつながっている。この思いがこの4年間ずーっとあった。これからもずっと忘れないよ

（広島県 小川良子）

○ある日、ふと私たち夫婦は顔を見合わせどちらともなく「ここに家を建てて永住しよう！」と言いました。そうして昨年夏、山荘風の家が出来上がりました。木とガラスをふんだんに使った家は太陽の恵みを一杯に受けます。家の前には200坪の庭そこには温室を作りました。四季折々の花を植えて手入れするのが楽しみです。

家には30畳の部屋を作り、多くの方々に集まっていただこうと思っていまして、次々と…。教会員

の方々はもちろんのこと（夫はキリスト教会の牧師ですから）、私が属しているグループ——油絵、粘土工芸、音楽協会、コーラスグループの方々が来て下さいました。

神戸から宮崎へ来て3年、思いもかけなかった展開です。経済不況の影響もあまり感じられない“田園生活”に心安らいた日々です。どこまでも青い空と海、夜は満天の星...、これ以上望むものはありません。“田舎”ということばを誇りに思う私たちです。

（宮崎県 白石方子）

○全国初の公営コレクティブハウジング（ふれあい住宅）は、被災地で9地区319戸が事業化されました。現在すでに8地区が入居しており、この3月に9番目として東部新都心の脇浜ふれあい住宅が入居します。入居からの月日の長さや戸数の大小によって、さまざまな状況にありますが、多くはまだ、どうしたらうまく住みこなせるかということで、頭を痛めているようです。また、友達家族のような気持ちのふれあいが少しずつ育まれている住宅も出てきました。昨年の夏からコレクティブハウジングの居住者交流会を持ち、自分たちの協同居住の状況や困っていること、うまくいっていることなどについて意見交流をして、住みこなしのためのアイデアや知恵を交換しています。その様子を「フレアイネットレターとコレクティブハウジングシート」として発行しています。

（神戸市東灘区 石東直子）

○震災から4年が経過。救援活動からコミュニティ作り支援、更にはコミュニティ事業づくりと矢継ぎ早に復興プログラムを市民の目線から捉え、開発・実践してきた。1998年12月には、その実践成果の一つとしてNPO法人の申請に至り、基盤の強化につなげたい。また、「ユイ」へのお礼は私と長谷川京子さんを結び付けてくれたこと。NPO法人は代表は中村順子、副代表が長谷川京子さんなのです。

まさに人と人を結び付ける“結”は今後も強力なネットワークを形成して、市民社会の一つのネットとなりましょう。

（神戸市東灘区 中村順子）

○「女性と政治キャンペーンが始まります」

初めまして。私は、女性がもっと自由にのびやかに生きられる社会をめざして8年前から、ウイメンズネット神戸という女性グループを立ち上げて活動を続けてきました。そして「政策決定の場に女性を増やすしかない」と思うようになりました。

3年前、1999年の統一地方選挙をめざして「女性を議会へ バックアップスクール」を仲間と大阪で始めました。1年目は何人集まるか心配でしたが、何と200人以上の問い合わせがあり、結局75人の女性たちが集まりました。2年目、3年目も参加者は減ることなく、しかも同様の趣旨のスクールが全国各地に誕生していったのです。

「あなたの強い意思と5人の仲間と100万円の資金、6ヶ月の準備期間があれば勝てる」と励ましてきました。政策に関する講義だけでなく、現職の市民派の女性議員の実践報告も授業に組み入れました。情報交換とネットワークの場にもなりました。

いよいよ4月、選挙です。全国各地でたくさんの女性が議会に挑戦します。そこで1月から女性議員比率全国平均10%をめざして「女性と政治キャンペーン」が全国的に展開されます。元気なキャラバン隊

もスタートします。どうかあなたも身近な地域で女性たちを応援してください。

私自身も住民投票の実現をめざし、市政を市民の手に取り戻そうと頑張っています。よろしくお願いします。——正井礼子と市政を変える女のネットワーク——

(神戸市須磨区 正井礼子)

○寒風を吹き飛ばすあたたかさを！！

最近、少年による凶悪犯罪が目立つようになりました。

「寒いね」と話しかければ、「寒いね」
と答える人のいるあたたかさ（俵万智）

やよろこびをひとりでも多くの少年に味わってもらいたい。

21世紀をになう少年にどうすれば明るい環境を与えられるのだろうか。私たち大人が一から考え直さなければならないと思います。

○近年、明るいニュースの少ない新しい年を迎え、複雑な世情ですが、この時に個人の値いが現れる時だと思えます。温室の中で居た人、反面外気に当たり、雑草のごとく歩んできた人の差が現れるのではないのでしょうか。各一人一人が公私の経営者の気持ちになり、原点より見つめ直す時だと痛感しています。しかし、人間口マンを忘れず、前進のみに明るい光を求め、21世紀の望みを託したいです。人と人のふれあいを見つめてみたいです。

(京都市 久元洋子)

○「ユイ」は今年もゆるやかにと書いてありましたのでホッとしました。私は今年は「ゆるやか」「ゆとり」をもって生きたいと思っています。何となく世の中、悪くなっていくようですが、横町のインキョミみたいにブツブツ言っています。

せめて心触れ合う人との「ユイ」を大切にしたいと思っています。

(茨木市 山田芳子)

○震災で多くの建物が一瞬のうちに廃棄物となるのを目の当たりにし、土に戻るような家を建てたい、と去年やっと完成したらもう丸4年とは…。

忙しかったけれど経済的には安定していた会社員をやめると、時折不安と孤独がやってきます。今大切なのは、“未来が必要とする設計者になりたい”と強く思うこと。よく勉強すること。前向きなこと。素直なこと。仕事を下さる方、たずねてきてはげましてくださる方、そんな周辺の方々に感謝しながら、どんな仕事も引き受けようと思っているこの一年です。

(神戸市東灘区 前田由利)

○“ゆるやかに活動”される「ユイ」は厳しく寒々しい情勢の中で生きている者にとって、ホッとできる存在、心が溶ける温かい場所のようで、お便りが届くのがうれしいです。

震災から4周年、当時2年生を担当していましたが、その子たちがこの春、卒業を迎えます。復興の格差が進み、被災地の取り残されて部分が気になり、復興のやり方はこれでいいのでしょうかと問いかけたくおはなし「続・神戸のなおちゃん」を出版しました。被災地の子どもたちは、今の大人の取り組みをしっかりと見ています。未来に希望がもてるような姿を子どもたちに示したいものです。また「ユイ」でもそんな話ができることを期待しています。機会がありましたら「神戸のなおちゃん」のメッセージも聞いてやって下さい。読んで頂ければうれしいです。

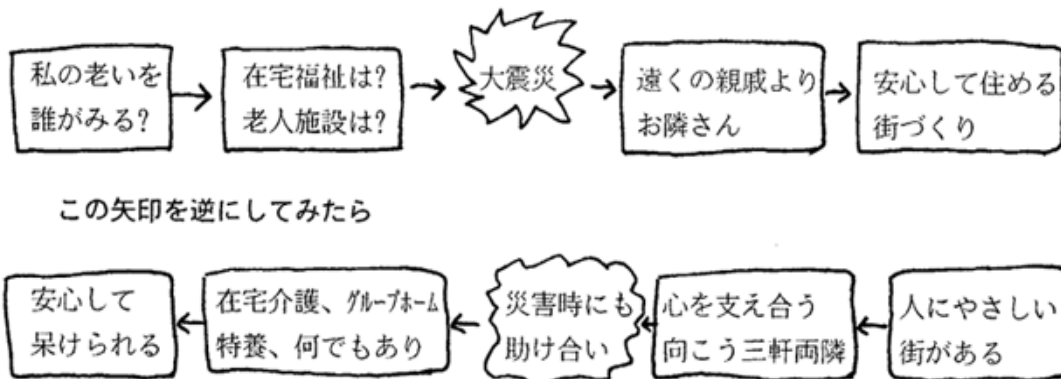
(神戸市灘区 池見宏子)

○家の近くの公園に震災の慰霊碑が建てられています。碑には町の丁目単位で亡くなられた方々の名前が刻まれています。この一人一人のまわりにどれほど多くの人の悲しみ、無念さ、喪失があることか…。震災を体験して、生と死が紙一重なのだと感じました。そして、生きていることはかけがえのないことなのだと思います。

日々を大切にしよう、自分のなすべきことを誠実にやっていこう。朝の散歩で慰霊碑の前を通るたびに、自分に言い聞かせています。

(神戸市東灘区 尼川洋子)

○この10年間に私が考えたことは



こんな社会をつくるために、私にできる役割を果していきたいと思います。

(神戸市中央区 中島れい)

○「ユイ」のみなさん、お元気ですか？震災から4年目、関西に住む私たちには1月17日がくる度に苦しい思いをかみしめ、気持ちを引きしめてしまいますね。

さて私の生活は、昨年4月に夫が会社を辞め、専業主夫をしてくれることによって大きく変わりました。子供が小学校入学を機にどちらかが家にいてやりたい...と言って、夫の方が退職を決意してくれたのです。おかげ(?)で私は、家事からほぼ解放され、サラリーマン業に精を出し、一家の大黒柱になってしまいました。

月～金は残業に、付き合いに...、そして月1回の割りで海外出張に出て、家に居る時はめし・風呂・寝るの生活です。たまに子供の顔を見るとお互いに「元気？」なんて声をかけ合ったり...という具合で

す。

専業主夫になって2カ月程たった頃、夫曰く「家事をしていると時間がこま切れにしか空かないから休養ができない。土・日は休ましてほしい！！」世間の主婦が聞いたら、当たり前よ！！と反論されるでしょうね。夫のライフワークが収入につながれば私のサラリーマン生活に終止符を打ちたいと思います。

(堺市 池側道代)

○昨年11月にマンションの購入契約をしました。今年の11月に竣工予定なのですが、改めて自分のライフスタイルを問いなおすきっかけになりました。

(神戸市東灘区 藤本久美子)

○4年前の震災で、住吉の生協本部が全壊をし、出火、死者も出るというすさまじい状況になりました。あれから本部事務所は三木市にある生協「協同学苑」の体育館を仮事務所にし、夏は暑く冬は寒い4年間を過ごしました。

この不景気で新しい本部事務所の建設見込みがたたず、私は自宅から片道2時間、往復4時間の通勤でした。それがこの度、住吉に一部事務所が引っ越すことになり、私の部署もその中に入っていたのです。これまで、家では寝るだけの生活でしたが、通勤時間は往復1時間、朝ゆっくり新聞が読め、家も片づき人間らしい生活が味わえ何かようやく震災から一区切りできた気分です。

新しい事務所には花を飾り、秒読みになった生協人生の最後を美しく飾りたいと思っている近頃です。

(西宮市 田中道子)

○「結・たより」をいつもありがとうございます。皆様の活動によって、少しずつ私にも生命がふくらんでくるようです。

昨年1月に夫をガンで亡くしました。55歳でした。まさに企業と共に歩んだ（家族も．．．）生涯でした。仏事が続く中でも、他人事のような日々が続いています。専業主婦の立場で、子の成長とともに、PTA、地域の子供会、住環境問題、町づくり等、私の活動も拡大し、その内容も生命、自然、地球と無限にテーマが連なって広がっていきました。しかし、視点は常に「生活の場＝家族の憩う場」が基盤となっていました。子らは成長し、それぞれの個人の生き方を尊重し、支援できる関係でいたいと願い、目の前に「降って湧いてきた問題」から逃げずに学びの機会とこの年齢（50歳）まで生きてきました。専業主婦だからできました。

連れ合いを亡くして、さすが今度ばかりは学びの機会とはなりません。ともすれば逃げだしたくなる日でした。尼川様のおっしゃるユイの活動のように、地域で『ゆるやか』に動きだしたい日を待っている状況ですが、皆様の活動や地域の変化、社会の動きに敏感に反応できるよう常に見ています。ありがとう。

(明石市 太田恵子)

○毎年、この時期になると思い出します。当時、赤ちゃんだった長男もこの4月から幼稚園へ。震災直後、夫と2人、声を出さなかった長男の安否を確認するまでのひととき、そして夫は近所の年配夫婦のみ家々へ安否の確認へと急いだ。明るくなってきた時、それぞれがけがをしているのに気づいた時、家中の様子を見たとき、そしてまわりの風景を見たおどろき！

一日中サイレンとヘリコプターの飛びかう音が途絶えたのは何日たったのことだろうか！毎日、水くみと長男のための離乳食の材料を求めて歩き回ったこと、水が出るようになり、久しぶりにお風呂に入れた長男の笑顔。

今はまちは震災がなかったかのように復興しつつある。でも、心に残したものは消えることがないだろう。私も夫もこれからずっと長男の成長とともに生きている喜びと当時の出来事がより深く心に刻まれていく。

(尼崎市 中村貴代恵)

○震災から5年目の春、1995年春に阪神大震災復興市民まちづくりネットワークの小林郁雄さんが「5年はがんばらねば…」と言われた時には、“ああ 5年か”と遠い春を思ったものです。ところが、気がついてみるともう5年目。仮住まいのつもりで移ってきた大阪が、仮住まいとは言えない存在になりつつあります。

といっても、やはり春は遠くにあり続けるといふ心持ちです。この数年、祖母をめぐる家族問題にもいきあたり、社会勉強・人間探究中です。ささやかな経験ながら、これからの仕事にも生かしていきたいものです。

(大阪市 弘本由香里)

○以後に届いたお便りは次号に掲載します。

ユイのひとびと

「ユイ」のメンバーの活躍を新聞記事で見つけました。ウイメンズ・シンクタンク・「ユイ」はゆるやかな集まりですが、メンバーはみんなそれぞれの場でがんばっています。

[新聞記事あり 省略]

ユイ・サロン

「震災関連記事でないため、内容は省略」

つれづれ連載 (2)

「震災関連記事でないため、内容は省略」

BOOK

「震災関連記事でないため、内容は省略」

■季節は春に向かっていきます。4月は統一地方選挙の時。女性が相次いで立候補しています。女性の政治参加を応援する、「バックアップスクール」（女性グループが企画運営している）の修了生たちも市民派として全国各地で立候補、女性と政治がぐっと近くなる感じです。もっと社会に女性の声と視点を！と願ってやみません。（尼）

(c) 1999ウイメンズ・シンクタンク・ユイ (デジタル化：神戸大学附属図書館)